

キャッシュレス決済に関する一考察

若林 大起

【要旨】

近年、キャッシュレス決済をめぐる動きが活発化している。日本政府は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催や新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、国全体としてキャッシュレス化に力を入れてきた。しかしながら、日本のキャッシュレス決済比率は29.7%と依然低い状況である。

そこで本研究では、キャッシュレス決済の普及を阻む要因およびその解決策を探ることを目的とし、キャッシュレス決済に関する諸資料を基に考察を行った。その結果、キャッシュレス決済の普及を促す一番の要因は、消費者の金融知識の増加および金融リテラシーの向上であることが明らかとなった。そのゆえ、消費者に向けた金融知識を学習する機会を幅広く提供し、金融リテラシーを高めていくことが必要不可欠である。

今後も、日本のキャッシュレス決済状況の変化を見守り、この研究結果がキャッシュレス決済の普及に向けた一助になれば幸いである。

【講評】

コロナ感染リスクを下げる効果が期待され、企業側だけでなく、消費者である私たちもキャッシュレス決済のニーズを持っており、提出原稿は興味深い。結論に至る論文構成も違和感がなく、論理展開は理解しやすいが、参照・引用した学術文献が少ない。学術雑誌・専門書を読み、以下を考慮すれば、評価はより高まったであろう。

フィンテック教育の重要性を説くにとどまらず、管理会計論のゼミナールで3年間学んだことを活かし、キャッシュレス決済の導入が企業の会計情報システムに与える影響について検討する。

導入企業側から見たキャッシュレス決済にかかる問題についてより詳細に検討する。